

安全報告書(2024年)



水間鉄道株式会社

2024年安全報告書 目次

- 1 ごあいさつ
- 2 安全の取り組み
 - 2 - 1 安全方針
 - 2 - 2 安全目標
 - 2 - 3 輸送の安全に係る行動規範
 - 2 - 4 安全文化
- 3 輸送の安全について（実態）
 - 3 - 1 鉄道運転事故
 - 3 - 2 インシデント（重大事故の兆候）
 - 3 - 3 輸送障害
 - 3 - 4 災害
 - 3 - 5 行政指導等の有無
 - 3 - 6 その他（安全を脅かす事項）
- 4 安全管理体制と安全管理の仕組み
 - 4 - 1 安全管理体制
 - 4 - 2 ヒヤリハット情報の収集と活用
 - 4 - 3 緊急事態時における防災体制
- 5 安全対策の実施状況
 - 5 - 1 設備
 - 5 - 2 人材の育成等に関する取り組み
 - 5 - 3 異常時の対応
 - 5 - 4 その他の安全への取り組み
- 6 自治体・関係先との連携
 - 6 - 1 関係先との連携
 - 6 - 2 自治体との連携
 - 6 - 3 お客さまへの安全啓発
- 7 安全報告書へのご要望

ごあいさつ

平素は水間鉄道をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。水間鉄道は、大正 14（1925）年 12 月 24 日に営業を開始して以来、2025年には開業100周年を迎えます。市民生活に密着した交通機関として、乗客輸送サービスの向上に努めてきました。お客さまに実感していただけるサービスアップの実現に向けて、取り組んでいるところでもあります。

さて、新型コロナウイルス感染症につきましては、公共事業を担う事業者としての「社会的責任」を果たすべく、感染拡大防止に取り組んでまいりました。新型コロナウイルス感染症が2023年5月8日に5類に位置付けられたことから、お客様への感染防止対策の啓発を終了しております。感染症対策にご協力いただき、深く感謝申し上げます。

輸送事業者として最も重要な使命である「安全」の確保については、尊い人命を損傷することのないよう、職員の一人ひとりが常に安全を意識することが大切であり、変わることのない使命です。「安全はすべてに優先する」との強い意識を持ち、輸送の安全に関する法令や規定を遵守し、厳正かつ確実に職務を遂行するとともに、職場から提起される危険因子にはスピーディーに対応し、全職員が一丸となって安全文化・安全風土の定着に向けて取り組みます。

この安全報告書は、規定に基づき輸送の安全確保のための体制や取り組み・情報を公表するものです。皆様の忌憚のないご意見・ご感想をお伺いし、安全輸送についてのご期待にお応えするとともに、お客さま、市民の皆さまに安心してご利用いただける鉄道をめざしてまいりたいと存じます。



代表取締役社長 藤本 昌信

2 安全の取り組み

2-1 安全方針

水間鉄道では、法令・規程の遵守の原則に基づき「安全方針」を定めています。

安全方針

「安全の確保」は鉄道事業の最大かつ最重要の、お客さまに対する責務である。私たちは全社員が一丸となって、この責務を誠実に果たし社会に貢献する。

- ・一人ひとりがルールを遵守し、職務を確実に遂行するとともに、もし判断に迷ったときは、自ら最も安全と思われる取り扱いをする。

- ・事故災害などが発生したときは、人命を最優先に考えて行動し、速やかに安全適切な処置をとるとともに職責・職場をこえて協力一致し、情報を迅速に伝え、安全の障害となる問題を速やかに解決する。

2-2 安全目標

水間鉄道では、「安全方針」に基づき具体的な「安全目標」を定めています。

2023年度「安全目標」

- ヒューマンエラーに起因する有責事故「ゼロ」
- インシデント「ゼロ」の継続
- ヒヤリハット報告、提出の促進
- 新型コロナウイルス感染症の社内拡大による輸送への影響「ゼロ」

2-3 輸送の安全に係る行動規範

水間鉄道では、「安全目標」を達成のための行動指針として、「行動規範」を定めています。

行動規範

- ① 一致協力して事故の防止に努め、輸送の安全の確保に努めます。
- ② 輸送の安全に関する法令及び関連する規程を理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
- ③ 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めます。
- ④ 職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをします。
- ⑤ 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動しすみやかに安全適切な処置をとります。
- ⑥ 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保します。
- ⑦ 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦します。

2-4 安全文化

水間鉄道では、「安全方針」や「行動規範」の実効性を高めるため、「安全文化」を策定して、「安全を最優先する企業風土の構築」に努めています。

「安全文化」

- 報告する文化
「事故の芽」等について自ら進んで報告します。
- 正義の文化
定められた法令や規程類、マニュアルを遵守します。
- 学習する文化
事故等の情報から、有効な安全対策を策定し実施します。
- 柔軟な文化
安全確保のために組織や職責をこえて一致協力します。

3 輸送の安全について（実態）

3-1 鉄道運転事故

2023年度において、鉄道運転事故は発生していません。

3-2 インシデント（重大事故の兆候）

2023年度において、国土交通省への報告はありません。

3-3 輸送障害

2019年度～2023年度において水間鉄道で発生した輸送障害の発生原因と発生件数は次のとおりです。

発生原因	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
鉄道係員	0	0	0	0	0
車両	0	1	1	0	1
鉄道施設	0	1	1	1	0
※鉄道外	0	0	1	0	0
自然災害	1	0	0	0	1
合計	1	2	3	1	2

※ 輸送障害（30分以上の列車遅延、列車の運休等）

※ 鉄道外とは第三者行為、沿線火災等の外部要因

3-4 災害

2023年度における自然災害は1件ありました。

大雨による線路冠水

2023年6月2日



3-5 行政指導等の有無

2023年度において行政指導等は受けていません。

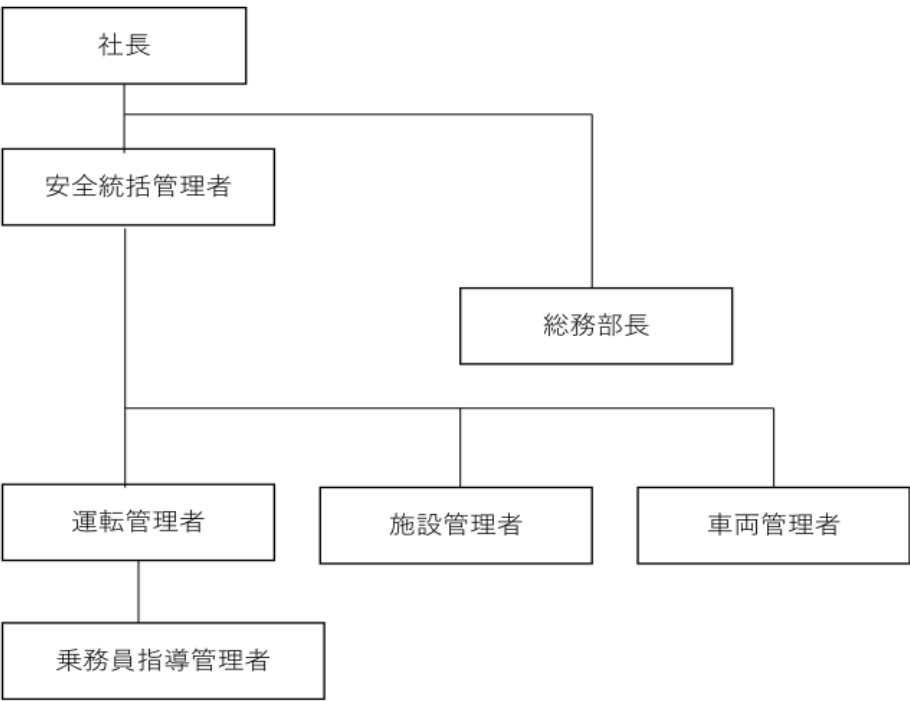
3-6 その他（安全を脅かす事項）

2023年度における安全を脅かす事項はありませんでした。

4 安全管理体制と安全管理の仕組み

4-1 安全管理体制

水間鉄道では、社長をトップとする安全管理体制を以下のように定めて、各管理者の責任を明確にした安全管理体制を構築しています。



安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務をします。
総務部長	輸送の安全の確保に必要な設備投資、財務、要員に関することを統括します。
運転管理者	安全統括管理者の指揮下、運転に関する事項を総括します。
施設管理者	安全統括管理者の指揮下、土木および電気施設に関する事項を統括します。
車両管理者	安全統括管理者の指揮下、車両に関する事項を統括します。

4-2 ヒヤリハット情報の収集と活用

(1) 収集

「ヒヤリとした」「ハッとした」事象について各部署で収集し、分析を行う。

(2) KYT 基礎 4 ラウンド法の実施

危険予知活動レポート（基礎4ラウンド法）	
事業所名	
想定事例	
第1ラウンド <どんな危険がひそんでいるか> 潜在危険を発見・予知し、危険要因と、その要因によって引き起こされる現象を想定しよう	
第2ラウンド <これが危険のポイントだ> 発見した危険のうち重要危険に〇印、さらに絞り込み、特に重要と思われる“危険ポイント”に◎印	
○ ◎	No. 危険要因と現象（事後の型）を想定して「～なので～して～になる」というように書く。
	1.
	2.
	3.
	4.
	5.
	6.
	7.
第3ラウンド <あなたならどうする> 危険のポイント◎印を解決するため、具体的に実行可能な対策を考えよう	
第4ラウンド <私達はこうする> 重点実施項目を絞り込み選択。さらにそれを実施するためのチーム行動目標を設定しよう	
◎印	No. 具 体 策
	1.
	2.
	3.
	4.
	1.
	2.
	3.
	4.
	1.
	2.
	3.
	4.
事業所安全衛生委員会委員名	
行動目標 「～を～して～しよう」	
終了時	

2. 迷惑行為 ①

【どんな危険がひそんでいるか】



4-3 緊急事態時における防災体制

(1) 防犯カメラの設置

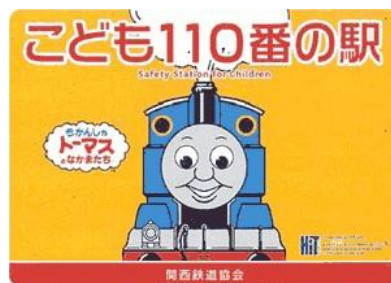


車内・外 ドライブレコーダー用カメラを流用



(2) A E D の設置

貝塚駅・水間観音駅に設置



5 安全対策の実施状況

5-1 設備

車いす用スロープの全車両設置



5-2 人材の育成に関する取り組み

(1) 係員の資質管理

- ① 適性検査
- ② 健康診断の実施状況
- ③ アルコール検査
- ④ 出勤点呼



(2) 教育

春・秋の全国交通安全運動、安全運転推進運動、
年末年始の輸送等に関する安全総点検などの
期間中に業務教育を実施

出庫点検要領の講習



5-3 異常時の対応

① 多言語発信機能

貝塚駅・水間観音駅に A I 通訳機ポケットークを設置
(2023年新機種に更新)



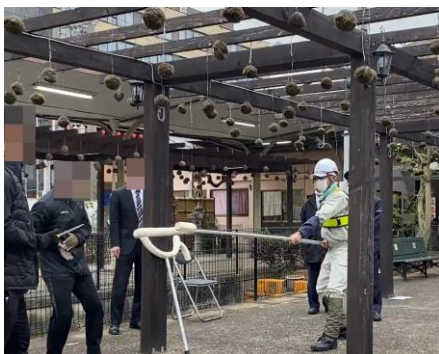
② 案内サイネージ機能

貝塚駅・水間観音駅改札口付近に
デジタルサイネージを設置



③ 警察・消防訓練

(現場での教育・訓練の実施)



「さすまた」取扱訓練



応急手当（AED操作）訓練

5-4 その他の安全への取り組み

「こども運転体験」の実施

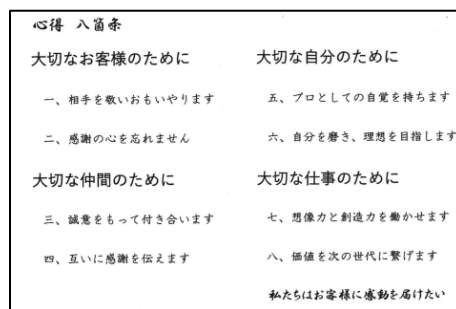
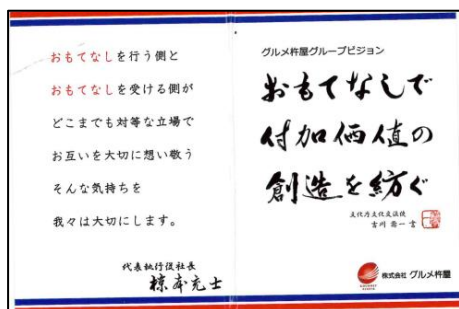
当社の安全に対する取り組みや思いを
学ぶことで「鉄道の安全」について
お互いに共有することを目的に実施
しています。



6 自治体・関係先との連携

6-1 関係先との連携

親会社グルメ杵屋の行動指針



6-2 自治体との連携

貝塚警察署・交通安全協会と合同で交通安全運動の啓発



踏切事故防止キャンペーン

清見駅付近の清掃活動



6-3 お客さまへの安全啓発

小学校・幼稚園等の「安全教室」や「運転体験」を通じて、お客さまと「鉄道の安全」について共有する機会を設けています。



7 安全報告書へのご要望

安全報告書に対するご感想、当社の安全に関する取り組み等に対するご意見は下記までお願いします。

水間鉄道株式会社 総務部

T E L 072-422-4567

F A X 072-431-0249

(8:45～17:35 土・日・祝 年末年始を除く)